

# 鼻マガラボ

Vol.08  
2026.1





## 今年の抱負

あけましておめでとうございます！

新年ということで、先生方から「昨年の振り返り」と「今年の抱負」をいただきました。



福田 修 教授

今年の一番の大きな変化は、奥村研究室と活動を分けるようになったことと、YEOH研究室が正式に立ち上がったことだと思います。6号館の部屋も使えるようになり、部屋も整理整頓されて、皆さんの研究環境が少しだけ改善されたように思います（まだ狭いですが）。研究に関しては、ゼミの改良やサーベイへの取り組みの強化など、かつてないレベルの活動に挑戦できるようになってきました。皆さんの研究のベクトルの軸も少しずつ揃いつつあり、人間、機械、AIの研究室のカラーもより明確になってきたように思います。様々な変化に戸惑いもあるかもしれませんが、次第にこれが普通になると期待しています。研究室の拡大にともなうコミュニケーションの難しさや、就職活動の早期化によるバランスの調整など、色々とおもいますが、力を注いだ分、喜びや楽しさも生まれると思いますので、全てのことに貪欲に取り組んでください。来年も精一杯精進しましょう。





Yeoh Wen Liang 准教授

今年、正式に自分の研究室を持つことになり、学生時代を振り返って、何が一番役に立ったのかを改めて考える機会がありました。振り返ってみると、特に大切にしてきたのは次の三つのことです。今後は、自分の研究室においても、こうした経験をできる限り積める環境を整えていきたいと考えています。

- 第一には、大学で学んだことの多くは、その後の仕事や生活に直接応用できるものではなかったけれども、ある分野を理解することが別の分野を学ぶ際の助けになることを何度も実感した点です。分野は異なっても原理が似ている場合は多く、そのことに気づくことで、新しい内容に取り組む際の心理的なハードルが下がりました。また、必要な知識は自分で身につけられるという自信を得ると同時に、自分にとって最適な学び方を見つけていくことにもつながったと感じています。
- 第二には、一つの問題に長い時間向き合い、悩み続けた経験です。以前は、学ぶとは「すべてが分かってすっきりすること」だと考えていました。しかし実際には、考えれば考えるほど分からないことが出てきて、不安や迷いを感じる場面の方が多いものです。研究を通して、そうしたはっきりしない状態の中でも考え続けること自体が、学びにとって重要なプロセスであると分かりました。
- 第三には、何かを決めるために、さまざまな情報を集めて考える経験です。個々の事実をそのまま知っているだけでは十分ではなく、それらをつなぎ合わせて全体像として捉えることが重要だと感じました。研究結果や意見、事実を結びつけて分かりやすい枠組みに整理できてはじめて、状況を理解し、納得のいく判断につながるのだと思います。



## 李 津穎

学会ではポスター発表を行った。冒頭の1分間スポットライト発表では、短時間で研究の要点をまとめて伝える必要があり、これまでとは異なる緊張感を味わった。続くポスター発表では、多くの参加者から質問や意見を受け、研究内容を深く掘り下げて議論することができたほか、名刺交換を通じて研究者同士の交流も広がった。関連分野の研究動向に触れる機会にもなり、刺激を受ける場面が多かった。移動の途中で立ち寄った宮島では鹿の姿が印象的で、掲載写真はその時の様子を写したものであり、学会の合間の一コマとして記憶に残っている。



## 石津 七海

これまでに何度か学会には参加していましたが、今回初めて「オーガナイズドセッション」に参加しました！1つのテーマを軸に自分の研究を関連付けて発表する形式は、自分の研究がどのような位置づけにあるのかを改めて考える良い機会になりました。また、他の研究とのつながりを意識するきっかけにもなり、とても勉強になりました。本セッションを企画してくださった福田先生、ヨー先生に感謝いたします。

また、広島での開催ということもあり、学会の合間には宮島で観光もしてきました！夕日と海岸線がとてもきれいで、良いリフレッシュになりました。

## 山本 亮輔

ポスターでの研究発表という普段とは異なる発表スタイルだったため、初めは難しさを感じていましたが、徐々に慣れていくことができ、無事90分間のセッションを終えることができました。特に、聴講に来てくれた方と一対一で自身の研究について話すことができたため、初見の方に研究内容がどれだけ伝わるのかを確認でき、また疑問点や新たな視点についてご意見をいただくことができました。今回得られた気づきを今後の研究に活かしていきたいと思います。



## 江口 大喜

学会参加後、一番に思う事は、他大学の研究成果の凄さです。今までは研究室内の研究を見る事が殆どだったので外部の質の高い研究からは多くのインスピレーションがありました。また、今回の発表形式はポスター発表で他大学の研究者とフラットな議論が可能でした。その議論の中では、他の参加者の知見の高さに驚きましたし、有識者との対等な議論からは多くの良質なコメントや質問を頂き、自身の研究に対して再度俯瞰的に考えることができたように思います。大学院進学を前にして、このような有意義な機会を貰えた事、とても有難く思っています。

## 編集後記

こんにちは、広報係の北添です。

今回の表紙は、Leeさんにいただいた宮島での鹿の写真です。とてもかわいいですね！

そして、2025年もお疲れ様でした！皆様のご協力のおかげで、2025年も素敵なマガラボを作ることができました。今年もよろしくお願いします！